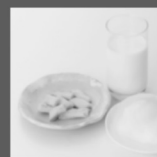


第14回 日本臨床口腔外科医会研修会

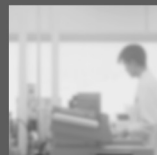
高齢社会で勝ち組になろう!〔2〕

明日からの臨床ですぐ使える!

在宅診療で役立つ摂食・嚥下障害の診断と治療



日本歯科医師会生涯研修認定



今、臨床現場では摂食・嚥下障害の治療に対するneedsが高まっています。この10年で、日本では嚥下障害の学会が組織され、臨床レベルも飛躍的に上昇しました。病院では様々な診療科で、様々な職種が参加した嚥下治療が行われるようになってきています。しかしながら、退院後は、急に嚥下に対する治療や介入が手薄となるのが現状です。

その結果、在宅や施設では、嚥下機能が回復しているにもかかわらず経管栄養が継続されていたり、悪化しても窒息や誤嚥性肺炎になるまで気付かれない、といった症例が散見されます。退院後の症状の変化に対応されずに「退院時のまま治療が止まっている」のです。嚥下障害は消長を繰り返すため、在宅や施設に戻ってもfollowしていく必要があります。

では在宅や施設で嚥下障害を診るのは誰が適任でしょうか?私たちは歯科がその役割をもっと果たすべきと考えています。歯科医院は日本全国に数多く、他科よりも往診が盛んです。何より、歯科医師は嚥下機能を含む口腔機能の専門家であるはずです。確かに過去において、嚥下機能に関する教育は、歯学・医学教育にとって必須ではありませんでした。そのため、嚥下障害の治療を始めようと思っても、どこから始めてよいかかわらず、なかなか最初の1歩を踏み出すことが難しく感じるのではないのでしょうか。今回の講演では、歯科が行う嚥下障害の治療について、私たちが行っている臨床を交えて、明日からでも実践できる内容をお話し、実習も行う予定です。

■講師紹介



野原 幹司 先生
大阪大学歯学部附属病院助手、
顎口腔機能治療部



佐々生 康宏 先生
大阪大学歯学部附属病院医員、
顎口腔機能治療部



小谷 泰子 先生
大阪大学歯学部附属病院医員、
顎口腔機能治療部

講演内容 歯科往診時における嚥下治療と栄養マネジメントの考え方 野原 幹司 先生

嚥下治療の観察ポイント 佐々生 康宏 先生

往診での嚥下治療の手順 訓練と食事介助 小谷 泰子 先生

実習内容 嚥下内視鏡検査、嚥下訓練、食事介助の実習

■お申込先

日本臨床口腔外科医会 (JACOMS) 事務局

〒661-0021 兵庫県尼崎市名神町1-11-1

アビーロード 名神1F いぶき歯科医院内

〔振込先〕 紀陽銀行 羽倉崎支店 (普通預金) 442294

〔口座名〕 日本臨床口腔外科医会 会計 栗本拓哉

お申込方法

下記の用紙に必要事項をご記入の上

Fax (06-6872-5968) にてお申込ください。

※ご質問等は j-info@jacoms.gr.jp までメールにて
お願いします。

■第15回 研修会のお知らせ

日程 平成19年 2月4日(日)

場所 大阪(タカラベルモント大阪本社)

演題名 最先端のインプラント治療
—より安全な診断と快適な治療法—

講師 菅井 敏郎 先生
(東京都開業、東京医科歯科大学臨床教授、
UCLAインプラントアソシエーションジャパン会長、
JACOMS会員)

第14回 日本臨床口腔外科医会研修会 高齢社会で勝ち組になろう(2) 申込書

ご面倒ですが、氏名欄の相当する職種を○でお開きください!

氏名	歯科医師・医師	代表者住所：〒	
	医療関係者〔看護師・介護補助者・歯科衛生士・その他〕		
電話番号	Fax番号	E-mail	所属(勤務先)

お申込・ご入会については、日本臨床口腔外科医会 URL <http://www.jacoms.gr.jp> でもご案内しています。